

林 重雄¹：静岡県御前崎市にアオミノウミウシの漂着Shigeo HAYASHI¹：So called “Blue dragon” *Glaucus atlanticus* stranded on the beach of Omaezaki-City, Shizuoka Prefecture, Japan

アオミノウミウシ *Glaucus atlanticus* は世界の外洋性暖海に生息する、腹足綱・裸側目アオミノウミウシ科に属する海面浮遊性の軟体動物である（奥谷 2000）。消化器官内の気泡によって浮力を得て、青い腹面を上にして生活する。みの状のえら突起は約3対の鰓群を形成する。餌には浮遊生活を送るギンカクラゲ、カツオノカンムリ、カツオノエボシ、アサガオガイなどが知られている（奥谷 2004）。

静岡県の最南端に位置する御前崎市は遠州灘の東端にあり、海岸は浸食によって相良層群の波蝕台が形成され、その上には砂丘も見られ、アカウミガメの産卵地としても知られている（静岡県公式ホームページ）。またこの海岸は東海地方におけるタカラガイ類やウミウサギ類の産地としても知られている（林 重雄ブログ）。2018年5月に御前崎市でアオミノウミウシの漂着を確認したのでここに報告する。

漂着記録

2018年5月18日午後、静岡県御前崎市白羽海岸（図1）で漂着物の調査を行った。調査範囲は海岸線に沿った低潮線およそ800mの範囲である。この範囲は他所よりも砂浜の傾斜が緩く、漂着物が断続的に打上げられていたため二往復して精査をした。低潮線沿いには多数の外洋性の浮遊性生物の漂着があった。その中で目立ったものがアオミノウミウシで、寄せ波で打ち上げられた直後の個体には、白い背面を上にして活発にえら突起を動かしているものもあった（図2）。調査中に確認したアオミノウミウシの漂着は27個体となった。そのうち17個体は漂着後間もないものであった。17個体のうち14個体が白い背面を上にして、3個体が青黒い腹面を上にして漂着していた。その17個体を海水を入れたペットボトル内に収納して持ち帰った。持ち帰った個体の中で活発に動き回っていたのは5個体で、緩慢な動きがあったのは6個体、動きが見られないものが6個体であった。計測が可能な11個体のうち最大の体長は29mm、最小は15mmで、平均値は21.2mmであった。

アオミノウミウシに随伴して打ち上げられた漂着物で目立ったのは、カツオノカンムリ *Verella verella*、カツオノエボシ *Physalia physalis*、ギンカクラゲ *Porpita porpita* であった。調査地域内でも漂着の密集していた範囲では、汀線に沿った1mの範囲にカツオノカンムリ32個体を数え、調査範囲内では700個体を超すものと見積もられた。その他に注目される漂着物では、アサガオガイ *Janthina janthina*、ルリガイ *Janthina globosa*、オキナガレガニ *Planes cyaneus* で、ルリガイにはルリエボシ *Lepas pactinata* の付着が認められた。

考察

5月18日、御前崎の天気はうす曇り、平均気温21.5°C、西南西よりの平均風速5m、干潮は13:24で-6cm、満潮は20:18で+157cmであった（気象庁ホームページ）。神奈川県水産技術センターの海況図データベース 関東・東海海況速報によれば、5月18日の海況図では、潮岬で大きく蛇行した黒潮の反流が、遠州灘から渥美半島の太平洋岸沖合いにかけて流入していた。それに調査を行った15時から16時30分にかけては、上げ潮に加え朝から吹き続けていた西南西の風が7.2mと強く（気象庁ホームページ）、海面に浮かぶ漂流物を岸に打ち上げるタイミングであった。

今回のように黒潮が運ぶ浮遊性生物群が、生きたまま打上げられるタイミングに出会えることは稀である。これは黒潮反流の流入と、海から陸に向かって吹く風が長く続いたことが一助になったものと思われる。



図1 調査地点の位置・静岡県御前崎市白羽海岸



図2 白い背面を上にして漂着して間もないアオミノウミウシ

今回持ち帰ったアオミノウミウシの飼育を試みたが、打上げ採取から10時間経過までは5個体の生存が確認できた。また同時に持ち帰ったカツオノエボシの浮力体には興味を示さなかったが、カツオノカンムリ2個体に対しては採餌行動があったことを付け加えておく(図3)。

謝辞：本稿をまとめるにあたり北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook
(<http://beachcomb.exblog.jp/>)

神奈川県水産技術センター海況データベース 関東・東海海況速報 (<http://sui-kanagawa.jp/Kaikyozu/KantoTokai/20180518.html>)
気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)

奥谷喬司 2000. 日本近海産貝類図鑑. 1174pp. 東海大学出版会, 東京.

奥谷喬司 2004. 改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類. 399pp. 世界文化社, 東京. 濱谷巖

静岡県公式ホームページ. (<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/shiraberu/higai/saigaishi/sh0039.html>)

(Received Jun. 26, 2018 ; accepted Jul. 25, 2018)



図3 青黒い腹面を上にしてカツオノカンムリを採餌するアオミノウミウシ

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan